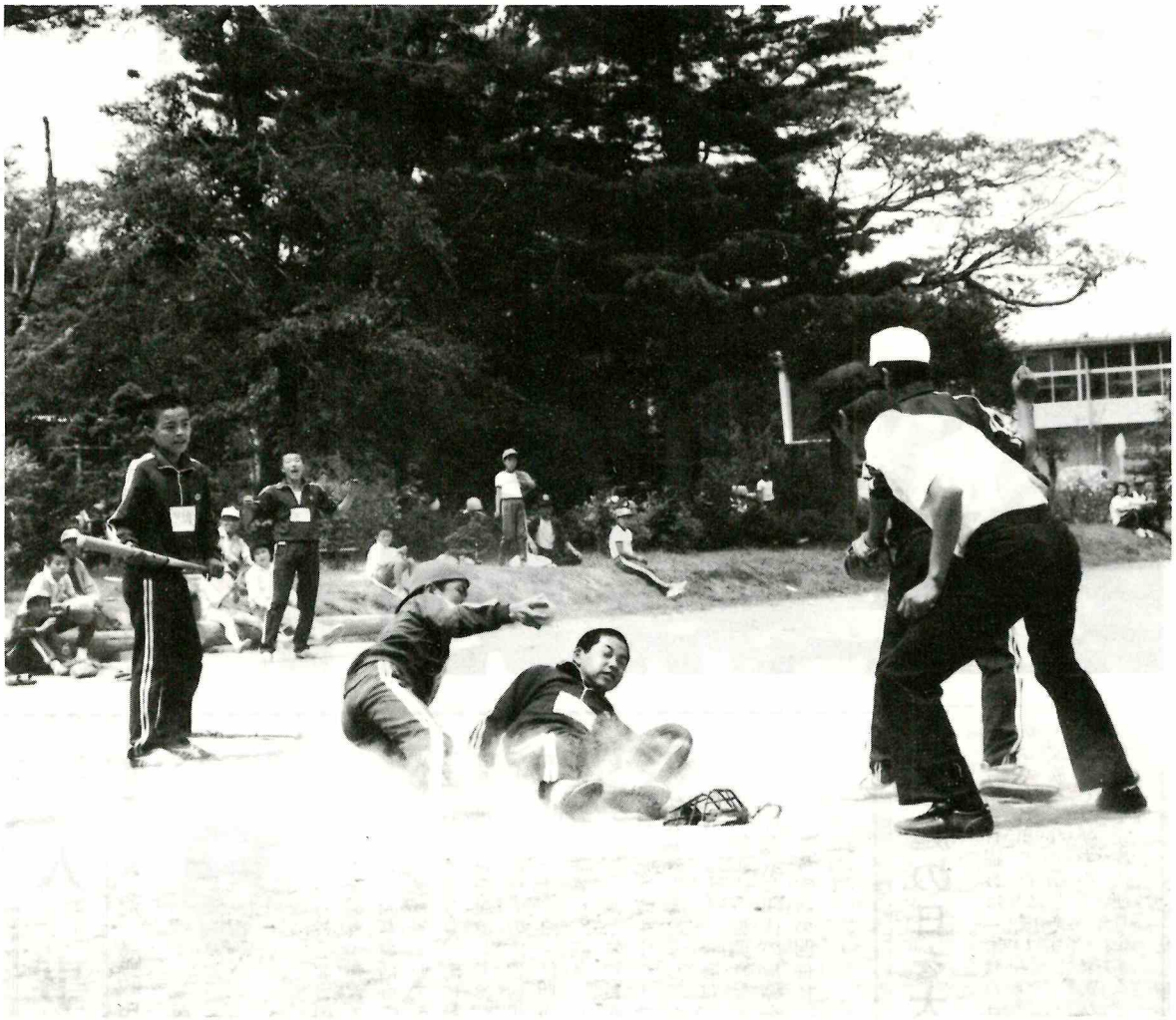
館報 おおくま

おもな内容

2面……あなたもどうぞ学級・講座へ
3面……清　流
4面……文　芸
5面……みんなの広場
6面……町史探訪

発行編集　大熊町公民館
印刷所　新栄社写真美術印刷㈱



熱戦のすえ 熊チームが優勝

小・中学生の健全育成と体力づくりをめざし、あわせてマナーの大切さを習得させるため、始められた部落対抗ソフトボール大会が開かれた。

部落の名誉にかけても、今年こそ優勝をと集まった九チーム、少年たちの元気あふれる好プレー、珍プレーのわが子の活躍に父兄が盛んな応援合戦をくりひろげていた。

日頃の練習で鍛えられた技量と精神力を遺憾なく発揮し、一戦一戦勝抜いて三年連続優勝杯を手にした熊チームのみなさん、本当におめでとう。他の部落の選手のみなさんも来年の大会をめざしがんばってください。

成績は次のとおり

優　勝　熊チーム
準優勝　小入野チーム
第三位　町チーム
第三位　夫沢チーム

あなたもどうぞ 学級・講座へ

○婦人学級
婦人としての教養を高める学習です。対象は一般家庭婦人です。

○若葉学級
明るい家庭づくりの基礎知識を身につける学習です。対象は若夫婦及び乳幼児をもつ母親です。

○青年学級
若人が集い、研修やレク活動を通し、多くの仲間と人間関係を身につけよう。二十五歳までの青年男女ならだれでも入れます。

○高齢者大学
町内の多くの仲間と話らい楽しい日々を送ろう。対象は六十五歳以上の高齢者です。

○茶道講座（華道…小原流も同時開催）毎月三回木曜日、午後三時から小峰先生が指導します。

○華道講座（龍生派）
昼間の部
毎週水曜日、午前十時から古小高先生の指導で美と芸術が楽しめます。
夜間の部
毎月第一・第三金曜日、午後五時から昼間と同じ内容で開講します。

○詩吟講座
毎月第一・第三火曜日、午後六時から寺門先生が指導します。

○民謡講座（二講座）
毎週第一・第三木曜日、午後七時から半谷先生が指導します。
毎週第二・第四木曜日、午後七時から今泉先生が指導します。

○書道講座
成人の部
毎週金曜日、午後六時三十分から井戸川先生が指導します。
一般、高、中学生の部
毎週木曜日、午後六時から泉田先生が指導します。
小学生の部
毎週土曜日、午後二時から池田先生が指導します。

○短歌教室
毎月第二土曜日、午後一時三十分から青田先生が指導します。

○俳句教室
毎月第三金曜日、午後六時から猪狩先生が指導します。

○珠算教室
毎週月・木曜日、午後二時から山田先生が指導します。

○手あみ教室
昼間の部
毎週火曜日、午前九時三十分から佐光先生が指導します。
夜間の部
毎週火曜日、午前六時三十分から昼間と同じ内容で開講します。

○コーラス教室
毎月第一・第三木曜日、午後七時から九時まで、開設します。

○舞踊教室
毎週火曜日、午後六時三十分から花柳寿桃翻先生が指導します。

○なかよし教室
対象者は町内の五、六年生

○料理教室
すぐに役立つ家庭のメニューです。月一～二回の実習で町民の方ならだれでも入れます。講師には普及所の先生が当ります。

○親子読書会
親と子の読書活動です。十名以上のグループをつくって申込み下さい。毎月楽しく、面白い本をお届けします。

料理教室より

人事消息

社会教育指導員　荒　盛政氏

市町村に於ける社会教育の指導層の充実を図り、時代の進展に即した社会教育活動を進めようと、文部省・県・町の三者が一体となり、町に社会教育指導員を設置して参りましたが、前任者の志賀敏男氏が、三月三十一日で任期満了となり退職され、四月一日から新たに、双葉中学校長を退職された荒盛政先生を大熊町の社会教育指導員としてお迎えいたしました。今後は、公民館活動をより振興させるため、社会教育団体の指導をはじめ、各種学級の開催について指導されます。

派遣社会教育主事（スポーツ担当）　若松　敦氏

町では永年の願望であった派遣社会教育主事（スポーツ担当）として県立浪江高等学校教諭の若松敦先生を大熊町にお迎えいたしました。任期は昭和五十七年四月一日から昭和六十年三月三十一日までの三か年間町の地域社会における体育・スポーツの振興を図り社会教育活動を推進するための実際的な世話役として学習内容を編成し、さらに指導者の発掘とその活用計画を立てるなど社会教育計画の立案及び学習の促進について指導されます。

家庭の日を大切にしよう!!

毎月第三日曜日は「家庭の日」になっています。家庭の日には次のような行事を行いましょう。
・家族みんなで話しあう　・家族みんなで楽しみあう　・家族みんなで運動する。　・家族みんなで力を出しあう　・家庭をはなれている家族に便りをする。

〝社会を明るくする運動〟

犯罪や非行のない明るい社会の実現は私たち共通の願いです。毎年法務省主唱による第三十二回社会を明るくする運動が七月の一か月間全国各地で展開されました。大熊町でも保護司・更生保護婦人会が中心となり、PTA・婦人会学級生等がそれぞれの立場で力を合わせ、標語募集・映画による対話集会・立看板・広報活動・青少年相談所の開設等住民参加を保ちながら運動が展開されています。これを機に地域青少年の非行防止活動並びに非行に陥った少年の更生に、住民一人一人が自らの問題として考え輪の広がっていくことを願ってやみません。

応募標語　大熊中学校

○気をつけよう　衣服のみだれ　三A　木村　晴美
心のゆるみ
○気をつけよ　甘い一声　黒い影　三B　塙　光一
○お互いに　声かけ合って　非行防止　三C　小野田洋美
○引き込むな　引き込まれるな　悪の手に　二B　小野田信夫
○迷わすな　あの手この手　危機一髪　二B　田母神由美子
○ふりむくな　甘い言葉が　魔の誘い　三A　菅原　淳
○非行の道　一歩入れば　もう遅い　三C　坂本はるみ
○助けよう　非行への道　愛の手で　二A　藤崎　幸江

清流

あいさつ

大熊町選挙管理委員会委員長
鈴木一雄

私達は幼少の頃より親や周囲のみんなから朝起きるとから夜就床するまで人と対面したら、あいさつをするようにしつけられている。

まず朝は『お早よう』に始まり『今日は』、『お晩です』は勿論気候、健康、消息など多岐に渉っている。此の挨拶がためらいもなく口から出る人は誠に勇気のある器用な幸福な人と云うべきで、世間には案外尠いと思う。

恙恥心とか引っ込み思案が先に立ち仲々出ないのが通例である

斯んな時はもどかしくて内心忸怩たるものを覚え、深く反省するのが常で、又勇んで相手の肩を叩き声をかけた途端振り向いた顔は人違いで見知らぬ人だったりして赤面すると共に穴があれば入りたい心境になる。

兎に角自分から先に声をかけた時は平穏だが、声をかけそびれた場合は引け目を感じてしまう。

私は特に近眼であり少し慌て者と人一倍引っ込み思案である為良く逡巡してあいさつが先様より遅れ勝ちである。今度からは誰でも良いから先に声をかけようと深く心に誓うのだが、実行は難しい。

路上であいさつをされて、ハテ今の人は誰だったかなあと、思い出す苦労も楽しいものだ。

併せて『すみません』と『有難う』の卒直な感謝の言葉も忘れてはならない。

私は今からでも遅くはない、仲々出来なかった此のあいさつを極力励行するよう努力して行きたいと決心するのだが、果たして出来るかどうか危惧の念に堪えない次第である。

世の中には簡単な事と思われるような小さなことで仲々出来ないことが尠くない。あいさつもその内の一つであると私は考える。

親子と一緒に

野上三区の杉の子会行事として行われた歩こう会は、去る四月二十五日開かれ、約三十人の親子が春を満喫しながら歩いた。

同子ども会は今年発足したばかりで子ども会員三十名（会長渡部智幸）育成会員二十名（会長渡部芳一）で組織をつくり、活発な活動を行うことを決めている。

歩こう会は親と子のふれ合い行事の一環として、午前八時三十分に諏訪地区に集合した親と子が手作りの弁当を持って三ツ森山までの三キロのコースを歩いた。

この日は、天候にも恵まれ春の一日を有意義に過ごした。

又、この会の発足には野上の鈴木保蔵さんが野上の子ども達を健全に育成したいということで大熊町公民館と連絡を取りながら組織した初めての子ども会です。

文芸

詩

月

大野小六年　古山　真弓

どーして　どーして
昨日は　あんなに
まるかったのに
今日はどーして　かけているの
あ　わかった
流れ星に食べられちゃったんでしょう
かわいそーね　グッスン

作文

お母さん

大野小六年　澤原由美子

お母さん、私のお母さんは毎日おばあちゃんと、田んぼや畑をやっています。だから手があれています。とてもかわいそうです。私と千秋のおそろいのセーターを作ってくれたりします。

夜かけいぼを毎日かいています宿題でわからないところがあったら、やり方をおしえてくれます。自動車に乗るといつもコーラスで歌っている歌をうたいます。私も千秋も母に歌をおしえてもらいます。

お母さんはとてもお料理を作るのがじょうずです。ハンバーグやシチューや、たまに中か料理もつくったりします。

お父さんもだけどお母さんもおばあちゃんもおこづかいは、私たちにくれません。私たちもおばさんたちにもらったお金はみんなちょ金します。そのかわり、どうしてもようなものがあると買ってくれます。私も母の日にはブローチをプレゼントしてやりました。

マラソン大会

大野小六年　渡部　佳奈

五月二十八日（金）三・四校時マラソン大会。当日に走るコースは一回だけ走ったことがあるけどとってもしんどかった。

二〇〇〇m（二km）、自分自身との戦い。二kmがこれほど長いとかんじたのは、今日ぐらいだろう旧校舎から家までが二・三kmだからたいしたきょりではないはずなのにすごくしんどかった。特にしんどかったのは、おり返しのちょっと前と、学校に入るまがりかどのあたりだった。その外にもしんどい所はいっぱいあった。（どっちかっていうとしんどくない、らくな方が少なかったけど。）

走っている中間のことはこれくらいにして、結果は、結果はえーと、結果は、あんまりいいわけじゃないからいいたくないんだけど由子先生に「十七」とピンクのペンでかいてあるカードをもらった「十七位」あのときゆっくりにしなかったらもうちょっとがんばっていたらもっといいせいせきだったろうにな。

いまかんがえてもしょうがないかと思い教室へもどった。家へ帰ってもう一度考えたけど終わったものはしょうがない。

つぎはガンバロウ！

短歌

吉岡友子

来む秋の稔り願ひて箱ごとに心をこめて種子を蒔くなり
初田植赤飯を炊き神棚に供えて祈る秋の稔りを

鎌田清衛

選抜の野球放送のボリュウムを上げて聴く畑に鶯も鳴く
鉄橋を渡る汽笛がたまさかに聞えて雨に梨の枝を結ぶ

小林かおる

こもれびにあかく木いちごふくらみてひさびさに娘と声あけん摘む
鳥舎の屋根にカタンカタンと山桜の小さき青き実日がな落ちくる

渡部富久子

活発な児も無口なる児もまじるその担任となりて呼名す
たんぽぽの綿毛しきりに飛ぶ道を言葉少なに葬列続く

佐藤祐禎

手伝ふ人誰もないのと幼らは野に居る我としばし語らふ
新車もて息子は帰り来ぬ高らかに我を呼ぶ声畑までとどく

飯田良江

時惜しみ語らふ中にもうひとりの吾が聞きてをり懐しき訛りを
いねがたく一夜悩みて聞き直るかく思ひにて朝を迎へり

郡司勝雄

朝靄の川面つんざく百舌の聲河鹿音途絶え山女魚しばし追ふ
山路きて見事に熟れし山苺を汗ばむ手にて一つほほばむ

俳句

中山安子

逝き人偲い籠りて桜満つ
孫たちの透きとおる声しゃぼん玉

結城千代

記念樹の辛夷ぽつぽつ咲きにけり
母八十路愛でつつ歩む八重桜

河西かつ

木の芽和え巷に行事の多き事
手植えする田ぞ珍しいと写さるる

木村容子

白木蓮の咲くやひたすら空の澄み
白木蓮の空にありけり十日月

武田よね

身辺に病む者多し花遠き
深睡るせし子の持てる柏餅

佐久間信子

風の波あきらかに見ゆ幟鯉
おおまたに大型機械代をかく

鎌田光子

春の雨農の疲れを癒しけり
遠蛙妻亡き友の笑みの顔

猪井静江

春うらら孫と唱歌を唄ひけり
我の亡き後思いおり紫木蓮

菅野ミヨ

子供の日山菜採りのピクニック
八重桜五月の闇に匂ひけり

永井善子

サンダルをはひて田植えの試運転

中山貞夫

若竹の林より来て風光る
倉朽ちてつつじは赤く燃えにけり

町民憲章

健康で楽しく働ける　豊かなまちを　つくりましょう
みんなで助けあい　明るいまちを　つくりましょう
きまりを守り　平和な住みよいまちを　つくりましょう
自然を愛し　きれいなまちを　つくりましょう
進んで学び　香り高い文化のまちを　つくりましょう

みんなのひろば

私達の交際費をかえりみて
―グループから改善を―

むだな交際費は減らしたいと思うのは誰も同じで有ると思いますしかし、これは他の費目と違い一人の努力では出来ないもので地域みんなの力で解決する事を求めたいものです。交際費と云うものはおつき合いの潤滑油の役割と、又相互援助の役割をしているのかも知れません。しかし、むだな交際は家計を狂わせていると云う声も以前にも増して再々聞かれます。病気見舞一つを取りましても、これはお互いに助け合い、励まし、当座の援助のつもりでお見舞する気持は皆同じではないでしょうかしかし、長年の習慣は一朝一夕に改まるものでは有りません。最近は快気祝や内祝など広げて見てびっくりするような高価な物も多々有りました。私は二つのグループに入って居りますが、この小さなグループの中からだけでもと思い話し合いした結果、お見舞返しについては廃止する事に決定し実行にうつしました。先日、ある方から心引かれる一枚ののし袋を見せて頂きましてすぐ公民館の方へ持って行きましたが、こののし袋には「お返しの心づかいは絶対受けとりません」と印刷し、又各種団体の名が記されて有りました。これらののし袋をこの町にも活用し徹底されたら少しずつ簡素化の兆しが現われるものではないでしょうか。

大川原一主婦

雑感

野馬形　松本多喜子

四季それぞれに情緒、風情豊かなこの国ではあるが、新緑が目にしみるこの季節が四季を通して最もさわやかに私には感じられる。冬の寒さからは完全に抜け出し、梅雨に入るまでのわずかな時季。

この春から小学校に通い始めたわが子の〝行ってまいります〟の元気な声が新緑の朝に清々しい。近所の上級生に迎えに来てもらい元気に出かけていく。入学して四か月半。やけに大きく見えたランドセルも最近では地についた感がある。クラスメートは殆どが幼稚園からの持ち上がりで遠慮はないようだ。反面、新鮮味も緊張感もないかもしれない。時折、子どものノートを開いてみる。たどたどしい字がますの中に並んでいる。これまではいかに元気に工夫して遊ぶか、それだけだった子どもが〝勉強〟を始めたのを見るにつけ自分も何かしなければと思う。学生時代、担任の先生の言われた〝人間一生勉強のつもりで頑張ろう〟の言葉が今も強く印象に残っている。日々の雑事に追われ、読書をすることも少なくなっている。そんな時、書物をひもとくだけが勉強じゃないと自分自身に言い訳している部分もあるようだ。時間の使い方など工夫次第とは知りながらこれがなかなか思うようにいかない。家事はエンドレスワークと言われるように主婦の仕事には終りがない。どこかで区切りをつけなければ。子は親の後姿を見て育つという。少しずつでもいい。子どもと一緒に歩んでゆけるよう努力してみよう。

大熊町史（第三巻史料編）近世出版「発売中」
付録近世山神窯跡の研究

大熊町史第三巻史料近世編が発刊し、ただ今発売しております。

第三巻史料編には、子孫に残すべき貴重な史料がたくさん記述され購入された方々から好評を受けています。この機会に是非「一戸に一冊」備えつけるよう、お勧めします。

◇連絡先　大熊町役場内
大熊町史編さん室（Tel 2111）

◇体裁
規格　B五判上製本箱入り
表紙　総クロス
印刷　活版
頁数　六九二頁
◇価格　四、〇〇〇円

交通安全に！
ミニぞうり寄贈

石田キクさん（野上字湯の神四六〇番地八十六歳）は、子どもたちの交通事故防止のため〝ミニぞうり〟を三〇〇個寄贈されました。

キクさんは、一日にわずか五足程度しか作れないが、コツコツと努力をし、大野小学校・大野幼稚園・大熊町保育所の良い子の皆さんの交通安全に役立ててくださいと寄贈されたものです。

▶ミニぞうり作りにはげむ石田キクさん

卓球教室
（女子部）

曜日　火曜日
月　三回
場所　スポーツセンター
会費　七〇〇円
時間　九時三十分～十一時三十分

卓球の好きな方、一緒にやりませんか。

御礼

△図書の寄贈▽

このほど、鈴木登美子さん（下野上二区）よりつぎの図書を寄贈していただきました。厚く御礼申し上げます。

「ママお話し聞かせて」「世界のむかし話」外五冊

趣味を生かそう

熊二区　坂本　甫

「美田を子孫に残す」と言うことわざがありますが、私は山を愛し立派な山林を子孫に残すと言う欲のこった趣味です。

人生半ばを廻った五十四、五歳にして植林と言う病に取りつかれそれが趣味に変ったのであります。おもいおこせば、昭和三十七、八年頃役場に勤めていた時、失業対策事業の一環として町有林三ツ森山に松苗を植付、翌年行って見ると手入れの行届いた松の苗木は一尺五、六寸（45・45㎝～48・48㎝）に成長し立派な山林となっていたのでそれに見とれ自分も植林をやろうと思い立ったのです。

植付後四、五年間と言うものはクヅ、フジとの戦いで悪戦苦闘でしたが、現在はクヅを消す薬品が有ると聞いております。

植付八年後に大雪のため全部の杉が倒れてしまい、木起しなど苦労しましたが、そのかいあって今では樹の高さも六、七間（10・90m～12・72m）目通り直径五、六寸（15・15㎝～18・18㎝）枝下四、五間（12・12㎝～15・15㎝）の立派な杉山になっております。

次の年からは猫のひたい程の持山ですが毎年二百～三百本程度植付けておるので約七割が松、杉、桧の人工森に変っております。

なお、植付と同時に森林保険の加入も忘れてはなりません。

地拵いがすんだら植付ですが一日に百本か百二十本程度ていねいに植付ているので枯れるのはほとんどありません。その山に合った苗木を植付ずに天然に生いた松が大きくなったところも有ります。植付後二～三年間を肥料をやっております。

さて、植付がすめば下刈ですが植付た年は二回、四～五年間は年一回、十二年～十三年間は、二、三年に一回やっておりますが下刈も又楽しいものです。

杉、桧など無節の良質材を造るにはビール瓶大の太さ（七年～八年）より枝打すれば良いとの事で枝打を行っております。

山の手入れは趣味とはかけはなれているのではないかと思う方もありましょうが「これが、七十四歳になる私の趣味なのです。高齢になっても山仕事の出来る事は趣味の力と思います。」子どもなどに言いつけられたのでは絶対出来ません。山仕事は一日二、三時間程度で夏の暑いさかりや、冬の寒い時は山々を見廻るだけで気持が晴々とするのです。十日と山をはなれる事は出来ません。

このようにして愛しておる山に入って山菜を取ったり、キノコを取るのも結構ですが山を登り降りする際に木の芯につかまって芯を折ったり、苗木の元にカマをかけて力を入れるのでそれがもとで枯木になったりするのが残念です。私の植林の思いたちはあまりにも年おいてからで皆さんも高齢ですので子どもさんか孫さんに植林をすすめていただければ幸いと思います。

山からの恩恵は私個人が受けるのではなく皆で受けておるのです今自然に吸っている清らかな空気毎日使用している水などは山林からの恩恵と言っても過言ではありません。皆で山を愛し緑豊かな大熊町と緑の国日本を築こうではありませんか！

（筆者は高齢者大学の事例発表者の一人であり本人の了解を得て短縮し掲載しました。）

編集後記

◎公民館報の発行も町民のご協力と編集委員の活躍により一二〇号を発行することができ誠にご同慶に堪えません。本年度も町民の館報として編集して参りますのでご指導とご協力をお願いします。

なお編集委員は次の方々ですのでよろしくお願いします。

松本幸一　井戸川俊正　鎌田清衛　佐々木親兵衛　島覚　石田キミ子　木幡キサ

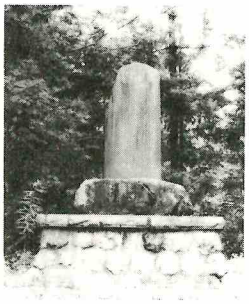
◎館報の原稿をお寄せ下さい。要領は四百字詰原稿用紙一枚程度で

① 主張、産業、教養、文芸に関するもの何でも結構です。

② 政治的な色彩を帯びたり、個人非難に属するものでないこと

町史探訪

下野上創業百年記念碑



この碑は、昭和十七年八月、大字下野上八幡神社境内に建てられたものである。

文は当時の東京帝国大学名誉教授文学博士塩谷温氏、書は双葉町半谷松湖氏の筆になるものである。碑文は難語句が多いので、わかり易く書いてみる。

天明天保の大凶作で住民離散し田園は荒廃した。相馬藩主がこれを憂い、復興のため移民を募集した。そこで堀川和三郎、脇坂彦左ェ門、大山六左ェ門、多門伊三郎、金森三太郎、武内清五郎ら加賀より来り開拓した以後続々移住して明治初年には三十六戸となった。その後大野駅の新設、大野小学校基本財産地の開拓により今は百余戸となったが益々発展のきざしがある

思うに今日の発展は相馬藩の仁政によるものであるが、先輩の人たちの奮励努力のたまものである。

昭和十五年は皇紀二千六百年に当る。この年は当部落創業百年に当るので有志と話し合って記念碑を建てることにした。私は撰文を依頼された。郷党の皆さんが先祖を思う心のあついのに感激し、碑建設の趣意を記して後人を励ましたいと思う。

この記念碑建設を計画したのは脇坂綱治郎氏で六人共同出資で建設をはじめたが、部落民の多数が参加を申し入れたので工費四百円を費やし九十円の残金を生じたので、これは八幡神社の屋根替費用に寄附したという。（脇坂氏の追想録による）

この碑文の原稿は脇坂氏と同部落居住林甚太郎が原文をつくり塩谷博士に撰文を依頼したと聞く。博士は当代第一流の学者であったが、林氏は以前から面識があったので、この大役をひきうけてくださったという。

（松本幸一）